

**2021 JSCE
ANNUAL MEETING**

**International Roundtable
Meeting**

**Changing Society and
Future Infrastructure**

**September 8,
16:00-18:00 JST**

AGENDA

Moderator : Prof. Makoto Kimura, a Board of Director, JSCE, Kyoto University

Time	Presentations & Discussion
16:00-16:05	Opening Opening Remarks by Prof. Hitoshi Tanaka, JSCE IAC Senior Director, Tohoku University RTM Outline by Prof. Makoto Kimura
16:05-16:15	Mr. Hiroaki Taniguchi, 2021 JSCE President “Changing Society and Future Infrastructure”
16:15-16:25	Prof. Sutanto Soehodho, Deputy Governor for Industry, Trade and Transportation, Jakarta, Indonesia “Public-Private-Partnership (PPP) in Indonesia”
16:25-16:45	Dr. Brett C. Philipps, ASCE Immediate Past Region 10 Governor & Dr. Warren C. Ladbroke, President, ASCE New Zealand Group *ASCE: American Society of Civil Engineers “Infrastructure Planning in Australia and New Zealand”
16:45-16:55	Assoc. Prof. Nguyen Hoang Giang, Vice Rector of Hanoi University of Civil Engineering, Vietnam “Construction Demolition Water Valorization & Management in Vietnam –Circular Economy Approach and 3 R Model Proposal”
16:55-17:05	Prof. Benito M. Pacheco, University of Philippines, Diliman, a Former President of Philippines, Institute of Civil Engineers “Interdisciplinary Strategic Foresight for Infrastructure”
17:05-17:55	Discussion & Q&A
17:55-18:00	Closing Summary by Prof. Makoto Kimura

サマリー

COVID-19禍、
価値観、社会への期待求めるインフラの変化 & 多様化
将来のインフラ像は？ インフラ計画は？

**産官+コミュニティー
長期的視野
ビッグ・ピクチャー**

**産業廃棄物処理
循環型経済へ**

**国レベルの
インフラ管理+長期スパン
のインフラ計画**

**PPP事業
インフラ維持管理&運営
官民でリスク分担**

**将来のリスクを想定した
インフラ計画
“foresight” &
“future literacy”**

**<日本> 産官+コミュニティー
長期的視野
ビッグ・ピクチャー**

長期的な視野に立ち、社会全体を俯瞰する「ビッグ・ピクチャー」を描くことが必要。

今の日本は、ポストCOVID-19の社会像を描けていない。結果、インフラ計画はフアジーな状況にある。

官民が連携し、更に市民・コミュニティーを巻き込んで、“ビッグ・ピクチャー”を描き、明るい方向先を示す。そして、計画的に、効果的にインフラ整備を行い、将来のインフラを実現していく。

**<インドネシア> PPP事業
インフラ維持管理&運営
官民でリスク分担**

インドネシアのPPP事業は、請願型（政府主導）と非請願型（民間から政府へ提案）で行われている。現在、道路、交通、上下水道、水資源開発、エネルギー、テレコミュニケーション、教育、スポーツ・文化施設等19セクターでPPP事業が行われている。

PPPはインフラ維持管理と運営に対して行うものであり、民営化がゴールではない。官は公共サービスを提供し、民間は計画、建設、運営に対して投資し、官民でリスクを分担する。

<ベトナム>

産業廃棄物処理 循環型経済へ

国内で都市化が急速に進む。それに伴い産業廃棄物が増加し大きな課題になっている。都市部に処理場はなく、不法投棄も顕在化している。

官学連携して、この課題に取り組んでいる。一例として、ガイドラインの策定、税制措置、リサイクル材の市場活性化、新技術開発などがある。

循環型経済への移行を目指す。

<オーストラリア&ニュージーランド>

国レベルのインフラ管理＋ 長期スパンのインフラ計画

国レベルでインフラを管理をしている。15年から30年のスパンでインフラプロジェクトの計画を立て、実例ベースに、優先順位をつけてプロジェクトを実施している。

特に、長期プロジェクトでは、“ビジョン”、“能力”、“信頼”、“一貫性”、“コミュニティとの連携”が必要不可欠である。

<フィリピン>

将来のリスクを想定したインフラ計画 “foresight” & “future literacy”

政府は、10、20年後、世界的に気候変動、資源、環境のリスクが高まるとの予想を基に、インフラ計画 “Vision2040”を見直している。そのコンセプトは、“resilient”、“comfortable”、“secure society” である。不確実な将来のインフラ整備には、土木と他分野が連携し、計画を立て整備することである。とくに土木技術者は、10年、20年、30年先を想定する “foresight”と、過去と現在を照らし合わせて将来を読む “future literacy” を持つ必要がある。

長期的視野
リスク負担
PPP

国レベルの
プロジェクト計画

Foresight

Future Literacy

Big Picture

未来を創る

プロジェクトの
優先順位 循環型経済